

看護学部ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

▼目指す人材像

岩手県立大学の学士課程では、幅広い教養と国際感覚を備え、知識を柔軟かつ創造的に活用して主体的に行動できる人間を育成します。県立大学の強みを生かし、地域と連携した実践的教育を通して、産業経済、福祉医療、地域政策等の分野において専門知識を活用して課題解決に取り組み、豊かで活力ある社会の形成に貢献できる人材を輩出することを目指します。

看護学部では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、以下の能力をもてる人材の育成を図ります。

- (1) 市民としてこれからの社会の発展のために課題を見出し、問題解決のために批判的に思考し、論理的に表現できる人材（学士として普遍的・汎用的能力を備えている）
- (2) 看護職者として、ひと、文化の多様性を理解し、身体的・精神的・社会的側面から援助・支援できる人材（看護専門職としての能力を備えている）
- (3) 卒業後は看護職としての実践を積み重ね、看護学を探究し、生涯にわたり自己研鑽でき、看護実践を改善するリーダーとなり得る人材（更なる看護の発展に寄与できる能力）

そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えた者とし、学位「学士（看護学）」を授与します。

▼学生が卒業までに身につけるべき能力

- DP1: 学びの主体者となり、クリティカルに思考し、論理的に表現できる。（課題発見・解決能力）
- DP2: 幅広い教養を基盤として、看護を考えることができる。（幅広い教養、専門知識、社会への関心）
- DP3: ひとの多様性を理解し、一人ひとりを尊重するかかわりができる。（専門知識、コミュニケーション能力）
- DP4: 多様な場で状況に応じた看護の方法を考えることができる。（専門知識、社会への関心、課題発見・解決能力）
- DP5: 基本的な看護技術を用いて、対象となる人へ支援することができる。（専門知識、コミュニケーション能力、課題発見・解決能力）
- DP6: 看護学を探究し発展させる基盤を備えている。（専門知識、課題発見・解決能力）

看護学部カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

▼学部の教育内容及び教育方法

岩手県立大学の学士課程教育では、卒業認定・学位授与の方針に掲げた共通の柱及び学部ごとに設定する能力の育成のため、基盤教育科目と専門教育科目を中心としたカリキュラムを編成・実施し、学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

看護学部の学士課程教育は、4つの科目群で構成され、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）で掲げられた能力を育成するための科目が配置されています。

CP1:「基盤教育科目」は、4 学部共通の科目群で、各専門科目を積み上げていくための基盤的学問と学びの技法としてのアカデミックスキルズを獲得することを目指します。また、多言語を学び、多文化理解を図ります。

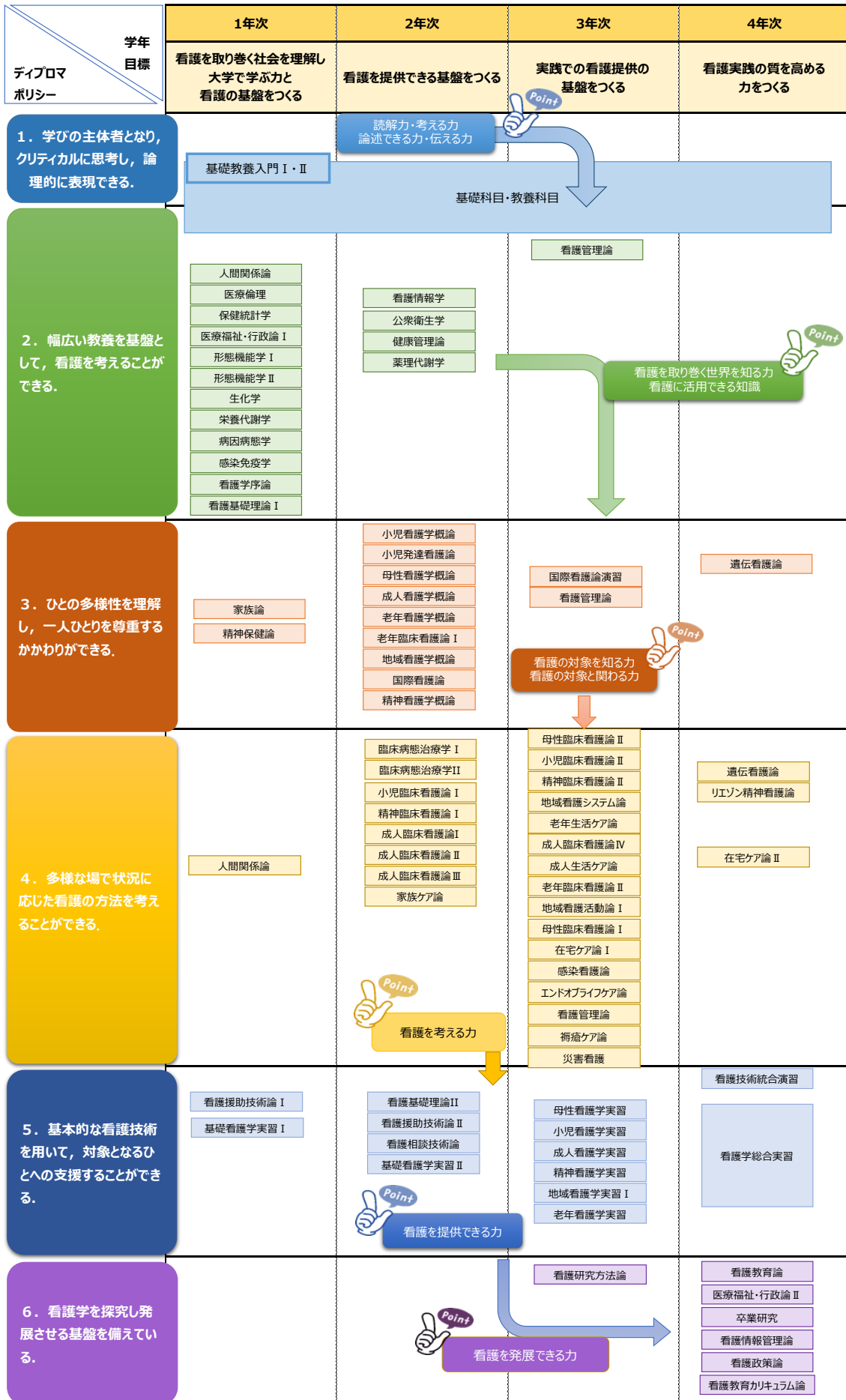
CP2:「看護基礎科目」は、実践に活用できる看護専門科目を積み上げるため、かつ、人間・社会の理解を図るための基礎知識の獲得を目指します。

CP3:「看護基幹科目」「看護学実習」は、臨床実践に活用できる具体的な看護の知識・技術の獲得を目指します。

CP4:「看護統合科目」「看護関連科目」は、看護学をさらに発展させるための科目群であり、看護専門職としての成長、また、看護学そのものを発展させていくための研究方法を学びます。

いずれの科目もその関連性・順序性を重視し、教育内容・方法を工夫しています。また、学修者が自身の学びを確認できる形成的評価も適宜取り入れていきます。

■カリキュラム概要図



■各年次における学び

看護学部の学士課程教育は、6つのDPを横軸に、学年目標を縦軸にして各科目を配置している。それぞれのDPを目標に応じた段階で学べるように各科目のレベルが考慮されている。

【1年次の学び】

(学年目標) 看護を取り巻く社会を理解し、大学で学ぶ力と看護の基盤をつくる

(学修内容) 1年次はDP1・DP2にかかわる科目を多く配置している。特に、DP1「学びの主体者となりクリティカルに思考し、論理的に表現できる」の実現のために、アカデミックスキルの修得、また看護を知り、考える基盤となる科目を配置し、専門科目を積み上げていく準備段階の学びとなる。

【2年次の学び】

(学年目標) 看護を提供できる基盤をつくる

(学修内容) 2年次はさらにDP3・DP4にかかわる科目配置が多くなっている。看護実践者としての、基盤を作るための科目が配置されている。看護を取り巻く世界を知り、看護を考える上で必要な基礎知識を学ぶ。よって実践現場において、看護を提供するための理論的基盤を作り、次年次の実践的な学びの基盤を作る。

【3年次の学び】

(学年目標) 実践での看護提供の基盤をつくる

(学修内容) 3年次は、DP4・DP5を目指す科目群を学ぶ。これまでの学びを踏まえて、様々な実践現場で、具体的な看護提供の方法を学ぶ。また3年次後半部分においては、ただ看護提供者という視点だけではなく、管理、政策、研究など看護の質を高め、医療サービスの安定した提供を実現できる考え方を学ぶ。

【4年次の学び】

(学年目標) 看護実践の質を高める力をつくる

(学修内容) これまでの看護の基盤、また実践者としての学びを踏まえて、DP6とより発展的なDP1を実現するための学修を行う。看護発展科目において、看護実践にかかわる現象をさらに焦点化した専門的な学びを提供している。卒業研究を通して、1年次から重視してきたDP1をさらに発展させ、看護の質向上のための研究的手法を学ぶ。看護学総合実習において、これまでの実践での学びを統合し、発展させた実習を行い看護の実践を高めるための力をつくる。